

薬用植物園かわらばん

皆さ〜んちょっと覗いてみませんか？
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ・・・



2019年
4月15日
第62号

ツルニチニチソウ (キョウチクトウ科)

園内、道具倉庫周辺一帯に、地を這って咲いているプロペラ状の紫色の花が見られます。ヨーロッパ原産の常緑つる性植物の一種で、鑑賞用に栽培されていますが、一部が野性化しています。よく似た植物のニチニチソウは、かつてはツルニチニチソウと同じ *Vinca* 属に属していましたが、ニチニチソウは独立して茎が直立する一年草であり、今は別の *Cantharanthus* 属となっています。ヨーロッパでは、開花期の全草を薬用とし、民間で降圧薬、催吐薬として用いられると言われています。葉にインドールアルカロイド、ビンカミンを含み、脳循環改善薬として開発されようとしていましたが、有効性が認められず中止されました。ビンカミンは、日本では「専ら医薬品」扱いですが、アメリカではダイエットサプリメントとして販売されています。



テンダイウヤク (クスノキ科)

今、園内管理棟近くで淡黄色の小花が多数みられます。享保年間（1716〜35）に中国大陸から伝わった雌雄異株の常緑低木で、九州、和歌山、静岡の諸県に野性化しています。和名は「天台烏薬」の音読みです。もともとは「烏薬」という名でしたが、中国の天台山に産する烏薬が名品であったことから、日本の本草学者が天台烏薬と呼ぶようになりました。生薬としては、塊茎をウヤクと言ひ、漢方では気の巡りを良くする理気薬、芳香性健胃薬として用います。主な成分は、ボルネオール、リンデリン等の精油成分です。和歌山県新宮市での、秦の始皇帝が不老長寿の霊薬を求めたという除福伝説で、徐福が探し求めたものとして有名です。

今、こんな草木が楽しめます！！